



## 『学校情報活用先進校』としての強みを伸ばす

あけましておめでとうございます。

2022年が始まりました。新型コロナウイルス感染症は、まだ収まってはいませんが、今年も感染防止に努めながら、子どもたちが豊かな学びができるよう、教職員一同、努力してまいります。3学期もよろしくお願いいたします。

過日、「分身ロボットカフェがオープン」というニュースを目にしました。「分身ロボットカフェ」とは、株式会社オリイ研究所が主宰・運営する、ALSなどの難病や重度障害で外出困難な人々が、分身ロボット「OriHime」「OriHime-D」を遠隔操作しサービススタッフとして働く実験カフェです。このカフェの開催によって「動けないが働きたい」という意欲ある外出困難者たちに雇用を生み出すと同時に、人々の社会参加を妨げている課題をテクノロジーによって克服することが可能になるのです。この取組みは2018年に初開催されました。その後、3回のアップデートを重ね、2021年6月に東京・日本橋エリアに常設実験店がオープンされたのです。働きたい、社会の役に立ちたいと思いながらも、願いを叶える環境に恵まれなかった人々にとって、大きな希望になる取組だと感じました。



昨年度から子どもたちが使用しているタブレット端末とは性能や使い方は異なりますが、これまでの学習の中で「できなかった」ことを「できる」に変えるという視点では共通していると思います。実際、黒板の文字や板書をノートに書き写すことが難しい子、自分の考えを文字で表現することが難しい子など、鉛筆とノートだけでは学習がなかなか進まない子がいます。伝えたい思いを言葉や形にする、その手助けになるのがタブレット端末です。今の社会では、自分の思いをどのように表現できるかが大切になります。だからこそ、表現を助ける道具としてタブレット端末を活用することで、表現の苦手な子が心豊かに生活できるようになってほしいと考えます。

一人一台のタブレット端末を本格的に活用するようになって15カ月が過ぎました。子どもたちは、自分用のタブレット端末が手元にあるだけでワクワク感が高まっています。子どもたちのタブレット端末に慣れ親しむ感覚（操作スキル）も、日増しに高まっています。タブレット端末を、単なる「教える」ための道具ではなく、子どもたちがより豊かに「学ぶ」ための道具にしていくためには、我々教師も「授業観」をアップデートしていく必要があると感じています。草津小学校ではすでに多くの学級で、今までになかった授業スタイルが見られるようになってきました。

昨年度の臨時休校期間中、「やっぱり子どもは子どもの中で育つ」「一緒に考え、一緒に行動し、様々なことを学んでいる」ということを強く感じました。大人も子どもも大きなストレスを感じている今、「つながる」ことをこれまで以上に大切にしたいと思います。タブレット端末を使って、教室にいてもいなくても、ネットワークでつながれることは大きな強みになりました。コロナ禍で制約された学習活動を、ICT機器の活用で補完・充実させていくという発想が大切だと考えます。

「ICT機器でこんなことができれば」とアイデアを学校全体で出し合い、機器の扱いに詳しい教員がそれをサポートするという体制が自然な形でできているのが、草津小学校の強みです。学習機会の確保だけでなく、子どもたちの心の安定を保障するツールとして、ICT機器を工夫して活用していきます。

# 歌うことは素晴らしい・・・歌声集会 全校

12月3日（金）2，3校時に「校内歌声集会」を行いました。今年度もコロナ感染予防のために、残念ながら全校一斉に集まることはできませんでした。奇数学年と偶数学年で分けて体育館に入り、対面する形式で発表と鑑賞を行いました。体育館に入れない時間は、各教室でオンライン視聴します。

各学年のテーマと発表曲を、発表順に紹介します。

2年生 元気な声、そしてよいひびきを。

①子犬のビンゴ（斉唱）

②にじ（斉唱）

4年生 チャレンジ！～103人で一つの音楽を～

①ロックトラップ（ボディ・パーカッション）

②チャレンジ（斉唱）

6年生 未来へのとびら

①青空に深呼吸（合唱）

②つばさをください（合唱）

1年生 えがおいっぱい1年生

①はる なつ あき ふゆ（斉唱）

②しろくまのジェンカ（斉唱）

3年生 ようこそ！クサショーランドへ！

①友だち（斉唱&手話）

②とどけよう このゆめを（斉唱&リコーダー演奏&ダンス）

5年生 心を一つにすてきなハーモニー

①すてきな一歩（合唱）

②ビリーブ（合唱）



2校時は2，4，6年生です。情報委員会の司会により始まります。最初は2年生です。「子犬のビンゴ」は手拍子も入れてとても楽しそうに歌っていました。聞いているみんなが笑顔になるような、元気をもらえる歌声でした。4年生のボディパーカッションは必見でした。体の一部をたたく音だけなのですが、いろいろなリズムが重なるように響いてとてもかっこよかったです。歌声も4年生らしいよく響く声でした。6年生はさすがの歌声でした。聞いている学年はし～んとその素晴らしい歌声に聞き入っていました。心にしみる素敵な歌声が体育館中に広がり、心を穏やかに、いい気持ちにしてくれました。さすが、6年生でした。

3校時は1・3・5年生です。1年生は初めての歌声集会でした。お面をつけて動物になりきり「しろくまのジェンカ」で手拍子に挑戦。聞いている子どもたちから応援の手拍子が自然と出てきて、会場全体が一つになりました。素晴らしい発表でした。3年生は歌物語に挑戦。歌あり、せりふあり、手話あり、ダンスあり、バラエティに富んでいて、心ときめく楽しい発表でした。何よりもみんなが本当に楽しそうに発表できていたのが良かったです。5年生は伸びやかな歌声を聞かせてくれました。5年生のパワーと元気が全面に出た音量に圧倒されました。同時に、強弱をしっかりとつけた歌い方が出来ていて、さすが高学年という発表でした。6年生と同じく、高学年としてしっかりと下学年の手本となる発表をしてくれました。

昨年度は2学年ずつの発表でしたが、今年は3学年ずつでできました。「来年はぜひ、各学年の発表を全校で聞きたい」「保護者の方や地域の方にも見てもらいたい」と強く思える質の高い歌声集会でした。晴れの舞台に向けてみんなががんばってきたことで、また一つ、大きな成長を実感することができました。

## 盲導犬の素晴らしさを知る・・・3年生



11月7日(木)の5校時、第3学年の総合的な学習の時間「すべての人がよりよい暮らしをするために」の講師として、前田真里さんと盲導犬ペリー君に来ていただきました。前田さんにとって盲導犬は家族であり、心の支えであるそうです。盲導犬はよく訓練されていて、人に迷惑をかけるようなことはせずに、実際にお話の間も盲導犬のペリー君は前田さんの足元にじっと座って待っていました。町中を歩くときは盲導犬のおかげで、白杖を使うよりも物にぶつかることがなく安心して外出できるそうです。また、盲導犬ユーザーの気持ちや願い、がんばって仕事をしている盲導犬にどのように接したらよいのかなど、これからの自分たちにてきそうな話をたくさん聞くことができました。また、何人かの児童が、実際に介添え体験をしました。児童たちは、前田さんのお話を通して、盲導犬の役割について学ぶことができました。前田さんをリードして段差を教えながら階段を上る姿や、ハーネスの有無で顔つきや行動がすぐさま変わる様子を見て、ペリー君が前田さんのパートナーとして立派に仕事をしていることが理解できました。また、目が不自由な方の「見えないことの不便さ」だけでなく、工夫や周りの人の気遣いで安心して過ごせるということにも気づくことができました。

今回の体験学習をきっかけとして、「すべての人がよりよい暮らしをするために自分たちができること」について、さらに学習が深まりました。

## 人権集会(人権週間)・・・全学年

人権週間の最終日である11月26日(金)、人権週間のメインイベント人権集会を行いました。この1週間、「いじめのない 優しさあふれる 草津小」をテーマに、クラスや個人でめあてを立て、自分のできることを意識して取り組みました。人権集会では、各学年の代表の児童たちが、この人権週間で取り組んだことや人権学習をして考えたこと、これからがんばっていききたいことなどをオンラインで全校のみんなに話しました。「困っている人がいたら手伝いたい」「挨拶と笑顔を大切にしていきたい」「おかしいなと思ったときは勇気を出して言っていきたい」「自分が使う言葉に気をつけたい」どの児童もそれぞれの学年にふさわしい振り返りをしっかりとしていました。また、ハートフル委員会の人たちによる人権に関係するショート劇やクイズ、本の読み聞かせもありました。とても分かりやすく人権について学ぶことができました。

最後は「この星にうまれて」の曲をBGMに、学校生活の写真を見ました。みんなでがんばった運動会の様子や、素晴らしい体験ができた校外学習や若狭自然教室・・・友達とのつながりを改めて確認できる時間になりました。みんなでがんばったこと一つ一つが素敵な思い出になっています。これからもみんなの笑顔とたくさんの優しさで、すてきな草津小学校にしていきたいと思えます。



## 「お米パーティ」で感謝を伝える・・・5年生

12月6日(月)5校時、5年生の「お米パーティ」を行いました。4月から、環境ボランティアさんに指導いただきながら育てたお米の収穫を祝って行う感謝祭です。お世話になったお礼と、体験した感想や調べて分かったことを伝える大切な場でもあります。各学級の代表児童が会の進行や発表を行いました。

最初に子どもたちが、お米作りについてこれまで行ってきた学習成果をプレゼンテーションソフトを使って発表しました。発表内容は①「いねかりの苦勞」②「古い道具 田舟」③「香川県のお米」④「米の種類」⑤「昔と今のちがい」⑥「お米の歴史」です。その後、感謝の言葉を代表児童2名が発表し、感謝の手紙をボランティアさんに渡しました。また、作ったお米をどのようにして食べるのかを紹介しながら、ボランティアさんたちに収穫したお米の授与も行いました。次に、この学習のまとめとして、4月の「田植え」から、「お米が成長していく様子」、「稲刈り」、「藁で作った筆を使う書写」までの様子を写真で振り返り、学習の感想を発表しました。

最後に、環境ボランティア代表の戸高さんから「田植えをしっかりとしたので、今年は去年の倍の24kgも収穫できたこと」「良いお米を収穫するためには、土づくりや苗づくりが大切だということ」「いただいたお米を食べるのが、とても楽しみだということ」をお話いただきました。そして、稲刈りが終わった学校の田んぼにレンゲの花の種を蒔いたことを教えていただきました。春、レンゲの花が田一面に咲くのが、今から楽しみです。



## オンラインでイングリッシュ・・・6年生

6年生は、これまで、オンラインを使って海外の講師と英会話を行う取組を6回程度行ってきました。フィリピン人の講師の方と英語で会話することは、とても貴重な体験活動になっています。これまでの学習方法は、学級の人数を半分に分けて、講師の方1人に児童15人程度がグループになって英語学習を進める形式でした。人数が多かったこともあり、一人一人が会話できる時間はぐっと限られていました。

12月8日(水)に行った英会話の学習は、グッとレベルアップしました。講師の方1人に対して児童3人で英会話の学習を行ったのです。1台のタブレット端末に3人分のヘッドセットをつなぎ準備完了。接続前に少し会話の練習をしてからレッスンスタート。講師の方は、一人一人の名前を覚えて、呼名してから会話がスタートします。これまで学習してきた内容を踏まえて、わかりやすい質問をしていただいたので、子どもたちも笑顔で堂々と話すことができていました。30分間という限られた時間でしたが、充実した英語学習ができました。学習終了後には「もっとやってみたかった」「何を聞かれているのか、理解できた」という感想が聞かれました。

3学期は、講師の方1人に対して児童1人、1対1の英会話学習にチャレンジします。正確に話せなくても、身振り手振りを入れながら何とか単語をつないでいけばコミュニケーションがとれるという体験を積むことはとても大切なことです。この体験がこれからの英語学習に生きてくると思います。